

研修会報告

2023年6月15日(木)14:00~15:30 ハイブリッド開催(セリオホール・Zoom)

第22回 医療・介護関係者の研修～地域で生きるために～

「脳血管疾患を知ろう～後遺症がある高齢者を在宅で支える～」

高齢者に多い疾患のひとつ「脳血管疾患」について、講演・質疑応答を通して、在宅で支える知識・理解を深めるとともに、多職種連携について考える研修会となりました。

研修会では初めてのハイブリッド形式にて開催。18職種66名の方々にご参加頂きました。

座長:西区医師会 顧問 石原内科・リハビリテーション科 院長 石原 健造氏

講師:「脳血管疾患を知ろう～後遺症がある高齢者を在宅で支える～」

兵庫県立リハビリテーション中央病院

内科部長・リハビリテーション科部長 高田 俊之氏

「脳血管疾患の在宅リハビリテーション」

総合リハ訪問看護ステーション

理学療法士 濱崎 和樹氏

《講演内容》

- ・脳血管疾患とは、
- ・日本の将来 潜在的脳卒中患者の増加
- ・失語症、失語症のリハビリ
- ・嚥下障害、摂食嚥下障害のリハビリテーション

《講演の要点》

[脳血管疾患・意欲を支えるポイント]

- ・「いいところ」「できること」に寄り添う
- ・家族が「リハビリの先生」になりすぎない
- ・「役割」や「日常」を失わないよう支える



講師:高田医師



講師:濱崎PT

- ・退院後の生活を取り巻く因子とは、
- ・どんな目標をたてる?
- ・在宅でPT・OTはどんなことをする?
- ・事例①～⑦紹介

- ・訪問看護におけるリハは、1週間に120分まで→訪問以外での自主練など過ごし方が大事
- ・介護負担はみんなが安楽に
- ・生活の質を大事に

《質疑応答:一部紹介》

Q:自宅で家族でも行えるリハビリについて

A:筋力をつける為にスクワット継続は難しく、どこに活かしているのか分かりにくい。洗濯物たたみ、味付け等を提示する事が大きい。テレビ体操・各自治体が出している体操、もしくはリハ専門職に相談を。

【成果】(アンケートより一部抜粋)

薬剤師)・在宅でのリハビリの現状把握と課題を知ることができました。

看護師)・具体的な目標をたて、スモールステップを踏み、達成に向けて行うことが大切。リハビリする上で、寄り添い、活動や参加に目を向けて、支えることが重要であること。無理をしないこと。

リハ職)・失語症についての知識

MSW)・脳血管疾患、嚥下障害、失語症に対する知識と訪問リハビリの実態を知ることができました。

ケアマネ)・目標を具体的にした方が良い。高田先生の話はわかりやすく、勉強になりました。

・失語症や障害のアプローチ方法が違う目線で向き合えるヒントになりました。

通所介護)・生活希望に合わせた介護計画の具体例